



ケイヨウキンコウのケイヨウイソ

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館

第3回

久留里城址資料館(君津市)



インタビュー

“中の人”に
聞いてみました

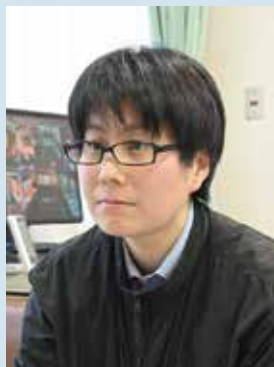
久留里、君津の歴史と自然の姿を 各時代の資料とともに身近に学ぶ

久留里城址資料館は旧上総町の明治百年事業として実施された、久留里城の復元とともに開設された資料館です。久留里城は戦国時代に里見義堯が本拠とした山城で、近世城郭として明治維新まで維持されましたが(江戸時代に一時廃城)、明治時代に入り廃城となり、城の建物は解体されました。しかし、地元をはじめ多くの人々から待ち望まれるなか、1978年には本丸跡地に天守閣を再建し、翌1979年には元々二の丸のあった場所にこの久留里城址資料館が開館しました。

資料館では、久留里城の歴史をはじめ、君津市の歴史と自然、文化に対する理解を深めていただくための豊富な資料を展示しています。この地域で発掘された考古遺物の展示や、江戸時代以降の刀剣や具足などの武具、当時使用されていたさまざまな生活道具、古文書などの「実物」を展示しています。歴史に興味のある大人の来場者の皆さんはそれらを本当に熱心にご覧になっています。また、お子さんたちは江戸時代の具足や刀、あるいは火縄銃などを前に「本物!」と歓声をあげています。

そのほか、年に1度、地域の歴史、文化をテーマにした企画展も開催し、多くの方にご来館いただいています。2024年に開催した「関東無双ノ大将 里見義堯 一久留里城を拠点とした戦国の雄」には、多くの歴史ファン、戦国時代ファンの方々にご来館いただきました。

ぜひ見ていただきたいのは、お城が存在した当時の久留里城と周りの状況を描いた絵図ですね。これを観た後に山の頂上から現在の風景を眺めていただくと、目の前の風景と昔の風景が重なって見えて、当時の人が見ていた様な景色に思えてきます。



久留里城址資料館
学芸員 鈴木 三美子さん



▲資料館2階が常設展示室になっています。久留里や君津市の歴史が学べます。

久留里城址資料館とは?

城の完成後、よく雨が降ったことから、別名「^{うじょう}雨城」と呼ばれる名城、久留里城の再建とともに発足した「ふるさとの歴史と自然をたずねて」をメインテーマにした資料館。歴史を語る多くの遺物が展示されているほか、海拔127.9mの高台にあり、144.3mにある本丸跡とともに絶景が楽しめます。春の桜、秋の紅葉など四季折々の美しく広大な風景を満喫できる観光ポイントにもなっています。

二の丸跡から望む三の丸跡

資料館の奥にある薬師曲輪からは、戦国時代の里見氏VS北条氏の古戦場や、江戸時代の黒田氏時代の三の丸跡を望むことができます。

案内板があり、御殿跡や大手門跡などの場所がわかりやすくなっています。

久留里の歴史、文化を 豊富な遺物と資料で学ぶ

久留里城址資料館は久留里城址内、元々二の丸のあった場所に建てられた資料館です。資料館2階の展示室は、「ふるさとの歴史と自然をたずねて」をメインテーマに、「郷土を掘る」・「城と武士」・「信仰と文化」の3部構成になっていて、市内の出土物や武士の使用した刀剣、鉄砲、調度品、絵馬、神楽道具などさまざまな展示と解説を行っているほか、屋外展示があります。また周辺も山城としての遺構が良く残されていて、この資料館のある地域ごと貴重な歴史の資料と言えるものです。



久留里城の鯉(しゃち)

「郷土を掘る」コーナー

久留里には数多くの遺跡が存在し、発掘調査によって多くの貴重な遺物が出土しています。このコーナーでは地質時代の化石からはじまり主に君津市内の遺跡から発掘された遺物や写真、地図などが展示され、この地で暮らした古代人の生活の一端も紹介されています。



▲常代遺跡から出土した弥生時代中期の木製品。写真下の資料は、石斧(おの)の柄の部分です。千葉県指定有形文化財に指定されています。遺跡が現在のどの辺りにあったのかもわかりやすく展示されています。

「城と武士」コーナー

久留里城は約500年の歴史のある名城。このコーナーでは刀剣、薙刀、火縄銃、具足など当時の武具や生活用具(本物の駕籠の展示もあり)のほか、古文書や絵図、掛軸や年表など豊富な資料も展示され当時の様子を浮き彫りにしています。



▲刀や短刀もちろん「本物!」です。



▲久留里城二の丸絵図。黒田氏時代の久留里城二の丸の様子を描いたもの。



当世具足

「信仰と文化」コーナー

人々の暮らしと信仰にスポットを当て、この地方に残されている懸仏・絵馬・神楽道具などを展示しています。また地域の特産であった久留里鎌や楊枝づくり、「上総掘り」の巨大な道具も展示されています。



黒田直方の奉納絵馬

屋外展示

資料館の奥、屋外に展示されています。「上総掘り」は深い井戸を人の手によって掘る技術です。明治時代の君津市域で考案され日本各地に伝わりました。竹や鉄管などの簡単な道具と人力のみで、50m以上の深井戸を掘削できるため、現在ではアフリカなどでもその技術が活用され、井戸が掘られています。



すごい!このホンモノを見逃すな!

久留里城天守閣周辺

これ見て!



久留里城址資料館を横に見ながら、さらに天守閣のある山頂方面へ進むと、目の前を歩く小さな動物の姿が。なんと正体は猿。人を警戒するでもなく、のんびりと歩いています。この辺りに群れで棲んでいてそれほど珍しい風景ではないとのこと(すごい)。

150mほど樹木に囲まれた小道を登っていくと、目の前には青い空を背景に黒い瓦で縁どりされた白壁が印象的な天守の姿が。そこから振り返れば田園が広がり遠くの山々までもが見渡せる広大な絶景。「おお!」とその見事な風景に声をあげています。この天守付近と資料館奥の曲輪

から見渡せる山頂からの風景はまさに見事の一言。資料館で拝見した当時の絵図などを思い出しつつ眺めれば、お城があった当時のお堀の位置や、城主が暮らしていた御殿(ちなみには今は水田になっている様子)のあった位置までも一つ一つ確認することができます。

戦国時代など、きっと遠くからくる敵も一目で見つけることができた素晴らしい山城だったのでは、と想像も膨らみます。

※令和5年5月に発生した地震により、天守閣の屋根上にある鯉瓦が破損・落下したため、余震等による更なる被害防止を目的として、当面の期間、天守閣内部への立入を禁止しています。(外観はご覧いただけます)

イベントに行ってみよう!

こんなおもしろ講座も開催されています

久留里城址資料館では、久留里城の歴史をはじめ、君津市の歴史や自然、文化に対する理解を深めるため、教育普及事業としてさまざまなイベントが開催されています。

【過去に行われたイベント】



【よろい武者に変身!】

本物そっくりの鉄製のよろいを着て、武将気分を味わうことができます。大人も子供も着ることができますので、家族でよろいを着て記念撮影もできます。



【川越藩の番所をめぐる】

江戸中期より久留里城の南側は、久留里藩領ではなく一帯は川越藩領で、藩の境界にはいくつかの番所が設けられていました。この川越藩が藩領の境に設置した番所の跡を訪ね、その歴史を体感。10km程度の山道を歩く、健脚向きの見学会です。

《もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第3回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した久留里城ですが、お城があった当時の別名は何と呼ばれていたでしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 雨城
- ② 青空城
- ③ 見晴城

取材協力・撮影協力・写真提供/久留里城址資料館

プラスαで、未来をともし。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌 検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント @keiyobk_official



X 公式アカウント @keiyobkofficial



正解は→① 雨城

2025.3
(次回発行予定/
2025年4月18日)